



5 インドネシア スラバヤ都市環境 改善事業(1)

都市インフラの総合的な開発を通じ
居住環境の改善をはかる

承諾額/実行額 112億5,100万円/108億9,300万円
 借款契約調印 1993年2月
 借款契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
 貸付完了 2004年3月
 実施機関 公共事業省居住環境総局 URL: <http://ciptakarya.pu.go.id/> (インドネシア語)

※本事業はインドネシア国家開発企画庁との合同評価を行った。



本事業の目的

都市道路、排水、廃棄物、上水の都市インフラを総合的に整備することにより、スラバヤ市の都市環境改善をはかり、同市の経済活性化および住民福祉の向上に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) **a**

本事業の実施は、スラバヤ市(人口約270万人)における交通量増加への対応、洪水被害の抑制、廃棄物収集能力の向上(約50万人相当分のゴミ収集能力)、水道の新規コネクション増加(6万世帯)に寄与している。本事後評価の受益者調査(ドライバー、事業所対象50人)では、受益者の約5割が道路交通の「大きな改善」、約2割が「ある程度の改善」を認識している。また、上水設備の整備の結果、既契約者のうち約6割が断水が改善したと回答している(一般家庭35人、事業所15、合計50)。スラバヤ市全体でも水に起因する疾病の減少が認められており、これは水道へのアクセス改善による効果であると考えられる。よって本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) **a**

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。本事業は審査時においては都市総合インフラ開発プログラムに基づき、複数部門を統合する総合的開発として進められてき

所得階層毎の水利用の変化(m³/月)

所得階層(2005年コネクション数)	事業完工前(1998)	事業完工後(2005)
貧困家庭(62,533)	97,198	2,111,082
低所得家庭(47,020)	131,629	1,458,722
中所得家庭(23,802)	55,326	747,678
高所得・大規模家庭(14,565)	4,052	606,787
合計	288,205	4,924,269

た。事後評価時点では地方分権化に伴い都市開発の担い手はスラバヤ市となったが、都市開発の総合的アプローチは引き続き重視されている。

事業実施の経済性(効率性) **C**

本事業は、効率性についての評価は低い。用地取得の難航により事業スコープの大幅な変更があり、期間は事業期間を大幅に上回った。なお、本事業では貸付期限をもって事業完工としており、事後評価時点でも事業スコープの一部は未完工となっている。事業費については事業スコープの大幅な変更により、計画との比較が困難となっている。

今後の展望(持続性) **b**

本事業は体制面において維持管理の新制度移管に伴う不透明感があるものの、持続性は概ね問題ないと評価される。事後評価時点において、維持管理責任の所在が明確でない場合でもアドホックな維持管理はなされており、整備されたインフラの状態は良好であった。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は概ね高いといえる。教訓としては、用地取得・業務調整に対する十分な準備を通じて、事業進捗の遅延を回避することが挙げられる。また、用地取得に関する政府規則の遵守、維持管理の管掌の明確化・公式化と適切な財政措置、未完工部分の早期完工等が望まれる。

開発途上国専門家の意見

本事業はスラバヤ市のみならず、インドネシア東部の開発にも高い関連性を有している。本事業にて整備された各種インフラはバランスのとれた開発に貢献している。

専門家の氏名: Mr. Wicaksono Sarosa (NGO)
 カリフォルニア大学バークレー校博士(都市・地域計画)。現在は、RONAKOTAリサーチ・コンサルティンググループ主任リサーチャー および都市・地域開発研究所リサーチアソシエイト。専門は市・地域計画等。